

七〽九月の法座案内

「歎異抄」を読む

七月十九日（火）
九時半〽

味読正信偈／蓮如上人を訪ねて

八月二十五日（木）
九時半〽

鏡池の集い／蓮如上人を訪ねて

九月十三日（火）
九時半〽

※岡崎別院総合整備事業の為、当院本堂は使用できませんので、京都教務所をお借りして三日講を開いております。

ご不便おかけしますがよろしくお願いいたします。

お盆参りのご案内

ご門徒各位へはお盆参りのご案内を同封しております。
同封のハガキにお参りの希望日をご記入の上、ご返送下さい。

本年度の当院の

朝の法話（暁天講座）は
本堂修復工事に伴い
中止となります

毎年執り行っております

八月 孟蘭盆会法要
九月 秋季彼岸会法要

は、仮寺務所の狭小スペースで
職員のみによる内勤め
とさせていただきます。

来院について

現在、当院境内は工事作業や車両の出入りなどがあり、安全が確保できかねますので、御参詣いただけません。
別院寺務所に御用の方は、山門入られてすぐ左にあります仮設の建物にお声かけしていただきますようお願い致します。

【列座のつぶやき】

蔓延防止も解除され、少しずつ元の生活が戻ってきたように思います。しかし、戻っていくものもあれば、戻らない、変わっていくものもあるように思います。

特に今は様々な手段で目の前にいない人と話すことができます。私自身、蔓延防止対策の影響で実家に帰ることができず、家族とは時にビデオ電話をするようになりました。遠くにいる人と顔を見て本当に会ったかのように思えることは便利で良いことですが、あくまで「会ったかのように思う」だけです。同じ場に身を置き顔を合わせて空間・時間、息づかいや表情を共有することで伝わること、思わずとも感じさせられることの重要性を、改めて確認すべき時でもあると感じております。（松岡）

跡庵草岡崎人聖鸞親蹟史宗
（願寺本東）派大谷真宗

岡崎別院

〒606-8335
京都市左京区岡崎天王町26

電話 075-771-2921
FAX 075-748-1665
http://okazakibetsuin.com
info@okazakibetsuin.com

第52号

鏡池だより

第52号
令和4年（2022年）
7月・8月・9月
発行：編集
岡崎別院
輪番 福田 大

無人の荒野

そこで 求められることは 道

渺渺たる海原

そこに 必要なことは 方向

鬱屈たる山谷

そこに 願われるものは 意欲

〽平野修遺稿集 『荒野の白道』序にかえて より抜粋〽

今年のゴールデンウィークは、コロナ禍による緊急事態宣言、まん延防止法などの規制のない大型連休となり、京都各所も久々に多くの観光客で賑わった。

私自身、五月九日より、ある研修会が札幌で企画され、最後まで、本当に実施されるか否かを危惧しながらの参加となった。

コロナ禍での二年ぶりの飛行機移動に胸を弾ませながら、反面、今の時期に本当に旅行をしても良いのかという思いのなかで、研修に臨んだ。

移動中には、この二年間のコロナ禍での変化に気付かされる多くの事があった。まず、飛行機搭乗時にチケットを使わない（スマホや専用のバーコードでの）搭乗で、荷物の預かりもスマホでの手続きで行うなど、機械音痴の私にとっては、時代から見放された感とともに、ある種のショックを受けた。

クを受けた。これら一連の変化は、コロナ禍での人と人との非接触化による必要に迫られた対応なのかも知れない。考えてみると、電車に乗るのも、バスに乗るのもチケットや切符は不要になり、カードやスマホで決済でき、ホテルは殆どが部屋キーではなくカードでの出入りという時代だ。また、郵便局や銀行による硬貨の預け入れ手数料金による問題から派生した、スマホによる御賽銭へと変化の兆しがある。

これら一連の流れに対しては、反面問題もある。一旦不具合が起きると銀行のATMやインターネットの使用制限など、便利になればなるほど生活に大きな影響を与える事態となる。より深刻なのは、人と人との対話がなくても生活ができるということがやはり問題である。昔なら人とのコミュニケーション（通信手段）は手紙が主であった。投函してからも届いたかな、もう返事が返って来るかなという相手を思い浮かべる微かな時間があったが、現代ではメールやLINE（SNS）が主流になり、しかも瞬時に送信し、瞬時に返信が来て、要点のみの通信手段となつて、人と人との間合いも、相手を思い浮かべる時をも失っていることも確かではないか

釈迦一流の御教えは、人を通して伝えられてきた。人と人との間合い、人を思い浮かべてその人を想うことを通して伝えられてきた。しかし、今、その事を軽んじられ、その事を見失っている時代に私は生きている。

現代は、ITを駆使し、YouTubeでの法話や現代の時代社会に相応した伝達方法も盛んに用いられている。しかし「どのように伝えるか」、「何を伝えたいか」、「何が伝えられるか」、が今、私に突きつけられた課題であり、そのことに悪戦苦闘していく勇気を現在の社会から賜わりながら、教化の実践の場が、今、私に与えられているように頂いていることである。

茶室

お茶室の改修工事が三月末頃から本格的に始まり、完了した。長年修復がされていなかった土台となる石積や柱、屋根にも多々劣化が見られました。

↑お茶室南側床下
↓東側から撮影（六月）

↑東側屋根の状態
↓南側から撮影（六月）

↑西側屋根の状態
↓石垣の組み直し作業

お盆

お盆の起源は、釈尊（お釈迦様）の十大弟子のお一人である目連尊者が自分の母が餓鬼道にいるのを救おうとすることから始まっています。

お盆とは、亡き方々を案ずる私が逆に、亡き方々から案ぜられて、お勤めしていただくことを別院からお願い申し上げます。（御門徒方は裏面の盆参案内をお読みください）

北側外構

北側には蛇籠が設置されました。山側からの流水の排水ルートを設置し、今後の庫裏を含む建物に水害が及ばないような設備にする予定です。

整備工事進捗状況

本堂 屋根 一層目

本堂屋根の瓦の撤去作業が行われました。隅部には水の流れもあつて、特に損傷が目立ちます。

本堂 屋根 二層目

一層目とおなじく、隅部を中心に、腐敗・損傷が激しい様子が見られ、長年雨漏りがあつた原因でもあることが顕著です。

本堂内

本堂の水平を保つよう、レベルの調整が行われています。また、縁の下のモルタルが剥がされ、東側のモルタル下の土中に伸びていた樹木の根も除去されました。

本堂裏

本堂の裏側は、今後職員住居棟や倉庫等が設置の予定の為、木々の伐採が行われました。伐採された木々の中には、推定樹齢が二百年を越えると思われる木もありました。今後は今回の整備事業での材として大切に使用させていただきます。また、写真の木材以外で伐採された材は、別院落慶法要その他の記念品となる予定です。